

# 8月26日意見交換会まとめ

## ○早樋議長

- ・ 本日は「子どもたちの教育を考える保護者の会」からの申請に基づき、議会基本条例に則って初めての意見交換会を開催。

教育環境基本計画について、これまでの経過を説明。

- ・ 令和6年2月：教育環境基本方針答申 → 教育環境基本計画素案提示。
- ・ 議会は拙速と判断し、3月に特別委員会を設置。
- ・ 6月議会で全会一致で特別委員会の報告を了承。
- ・ 9月議会で新たな案が示される予定

議会は多様な意見を持つ合議体であり、最終的には多数決で決定。

本日は住民の意見を伺い、有意義な会としたい。

## ○■■■■■

- ・ 教育環境基本計画について、住民・保護者との議論の場が必要との思いから「保護者の会」を発足。
- ・ 当初はPTA連合会として動く構想もあったが、現在は自身が代表を務めている。
- ・ 議会に検討委員会が設置されたことを評価。

## ○■■■■■

配布した意見書の中から質問を紹介。

「議員はどのような専門家や住民から、どの程度聞き取りを行ったのか。」

## ○高橋委員長

教育委員会や学校・保育所関係者と話すことはあるが、最終的には自分の経験に基づき判断している。

## ○早樋議長

議員ごとに意見は多様であり、個別の聞き取り状況を細かく並べるのは適切ではない。

意見交換会は「匿名質問」よりも「顔を見て、名前を出して意見を述べ合う場」とすべきだと考える。

報告書は議会で協議した結論であり、今日の会は住民の生の声を聞く場にした。紙の質問を議員全員が即答するのは難しく、個々の意見照会は避けたい。

## ○■■■■■

紙の意見は来られない人や発言が難しい人の声でもあり、住民意見として尊重してほしい。

## ○■■■■■

十人十色の回答だと混乱する。今日の意見やペーパーの内容を議員が持ち帰り、議会で議論してほしい。

## ○早樋議長

今日の意見や提出された質問は議会に持ち帰り、協議・活用する。

## ○高橋委員長

意見交換会の目的は、保護者や住民の声を議会に持ち帰り、議員で審議すること。今日の場合は、即答を求めるのではなく、生の声を聞くことが重要。

## ○■■■■■

特別委員会の意見書に基づき教育委員会として新たな計画書を再編される流れで、今後の小学校のあり方を研究するという文言になっているがスパンはどれくらいを思っているのか。

## ○早樋議長

小学校の「今後のあり方を研究」は5年程度のスパンを想定。

議会としては、今後の児童数減少の現状を踏まえ、今から検討することを教育委員会にお伝えした。

## ○■■■■■

今後5年で新入生は10人程度と予測されるため、早めに小中学校のあり方を検討してほしい。

## ○■■■■■

特別委員会の素案提出以前から、保護者と教育委員会で10回以上の協議を実施特別委員会設置後、教育委員会が対応を止め、8月まで進展がストップしていた。

統合時期や学年ごとの対応など、細かい課題が多く、保護者視点でないと把握しにくい問題がある。

時間をかけずに進めると、再統合の必要性が出るなど、将来的に大きな混乱が起こる可能性がある。

今後の教育基本計画には、多様な保護者や住民の意見を十分反映してほしい。

議員の判断や議論の内容を透明化し、保護者や住民にわかりやすく伝えてほしい。

子どもや保護者の生活・人生に影響する重要な決定であることを踏まえ、寄り添った検討を求める。

## ○■■■■■

小学校統合や志々小学校など教育基本計画に関連する課題について、多面的に議論されていることを評価。

現状、住民が入手できる情報は概要版1枚のみで、住民説明会も開催されず、計画の進行状況が不明であることに不安を感じている。

特別委員会の審査報告書により、当初「小学校できる限り存続」としていた方針に、将来的な小学校のあり方を研究する文言が追加された経緯を確認。

9月議会で教育基本計画の議案が上程され成案となった場合、住民が十分理解・意見を持たないまま進むことへの懸念。

3月議会で成案を一旦止めてもらったことは、住民意見を反映する観点から重要かつありがたかったと評価。

今回も同様に、住民が情報を把握し、意見を述べる機会を確保した上で計画が進むことを望む。

#### ○■■■■■

住民に伝わる情報が「大きな変化があった時だけ」という状況で不透明感がある情報が不足すると、住民が意見を出すタイミングを失い、決定された内容に納得しにくくなる可能性。

検討委員会の進捗状況や途中経過を広報誌や町の公式ラインなどで定期的に共有する。

住民が途中経過を把握できれば、議員や保護者間での議論・意見交換も活発になりやすい。

少人数の小学校では、運動会や発表会などで子供たちの負担が大きくなる。

学習・行事面で子供たちがより多くの仲間と協力して学ぶ経験を持てるよう、学校統合の観点も考慮してほしい。

「可能な限り小学校を存続する」という方針だけでなく、実際の子供たちの学びや育ちに寄り添った判断を望む。

#### ○■■■■■

「子どもたちの教育を考える保護者の会」のまとめ意見は、単なる紙ではなく、保護者の総意を示すもの。議員には真剣に読んでほしい。

行政・議会の検討は長期的視点に偏りすぎており、保護者は「来年・すぐ先」を見ている。

キャッチボールのように行政・議会・教育委員会の間でボールが行きすぎているため、迅速な対応を望む。

教育環境基本計画でも議論の中心は「ハード面（施設・統合など）」に偏っており、ソフト面（学び・育ち・子どもへの支援）が軽視されている。

地域ばかり重視されるが、実際に子どもを育てる主体は子どもと保護者であるべき。

スピーディーかつ子ども・保護者が意見を言える体制を重視。

子どもが健やかに学び育つ環境を最優先に考えてほしい。

#### ○■■■■■

学校統合時、通学距離が増えることに伴うスクールバスや交通手段の調整を検討してほしい。

地域に新たに定住する移住者・Iターン世帯による子どもの増加の可能性を考慮する必要がある。

ただ単に「人数を増やす政策」ではなく、地域に根付き、交流から自然に子どもが増える環境づくりを重視すべき。

#### ○高橋徹議員

自身の経験（来島小・赤来中・飯南高校）から、地域の人々が子どもを見守り、支えてくれる面は確かに存在する。

保護者から見えにくい部分もあるが、子ども自身は地域との関わりを感じていることもある。

統合や教育のあり方を考える際、まず子どもの声を聞くことが重要。

学校統合によるメリット（多人数での学び・交流の増加）もあるが、現状の小規模校で育った子どもたちの経験も大切にすることが必要がある。

#### ○■■■■■

地域の協力はありがたいが、一部の地域・人数に限られるため、「地域全体で育てている」という認識は適切でない。

現在の小学校は1学年数人～数十人で、役割や活動が限られ、同じ子が中心になりやすい。

少人数では、多様な経験や役割分担の機会が十分に得られない。

地域や施設の維持よりも、まず子どもが健やかに学び、育つ環境を重視すべき。

#### ○■■■■■

少人数のデメリット、学年で1人しかいない場合など、同年代の友達との交流やチーム活動の機会が制限される。

少人数だと上下関係や役割の固定化が起こりやすく、子どもに負担がかかる。

多人数のメリット、統合により人数が増えれば、チーム活動やスポーツ、学びの幅も広がり、より充実した経験ができる。

地域が子どもを見守ることは大きなメリットだが、人数が少なすぎる場合は学びや社会性の成長に支障が出る。

#### ○■■■■■

他県の小学校統合の事例では、統合当初は問題があったが、10年後には大きな問題はなくなっている。

統合後に残る廃校は、将来の負の遺産にならないように活用を検討すべき

統合によりバス通学が必要になる可能性がある。

子どもたちからは「他校の生徒と一緒にするのが不安」「バス通学が不安」といった声がある。

デモンストレーション的に、1日だけ授業体験やバス通学を試す取り組みを行い、子どもたちの意見を聞くことで問題点を洗い出すことを提案。

子どもが増える現実的な方法として、UIターンで戻ってくる家族の定住促進が重要。定住促進には空き家の整備や改修も必要。

#### ○早樋議長

統合後に生じる廃校については、議会としても十分な活用を検討すべき課題として認識している。

統合後の交通面は重要であり、定住対策や子育て支援にも影響する。

議会としても執行部に対し十分な検討を求めている。

空き家整備は重要だが、現状は十分進んでいない。

議会としても取り組みを促していきたい。

具体的な意見を出してもらうことで、議会が執行部に政策推進を促す形になる。

今後も意見交換会を通じて、住民の声を反映させていく方針。

## ○■■■■■

現在頓原小は5人だが、統合して13人になると「大根抜きチームが作れる」といった子どもの素朴な喜びがある。

人数が増えることで意見の幅が広がり、世界が広がる。

飯南町の自然環境は子育てに魅力的。

学校と地域（公民館等）の連携で教育や体験の場を広げられる。

人口減少や町財政の逼迫を考えると、新設校やバス運行の費用負担が大きい。自身も子育て中で第3子が生まれる予定があり、教育環境の将来に不安がある。

現地で子どもを増やすだけでなく、移住者の定住促進も政策として必要。

議員と町民が直接話せる場を継続的に設けてほしい。

自身も地域を回って意見交換に参加したい。

## ○■■■■■

少人数学校は地域交流が少なく寂しい面もある。

統合により、クラブ活動や公民館事業で他校の子と関わる機会が増え、子どもが生き生きする。

放課後子ども教室や給食センターなど職員不足が課題。

統合により運営効率や費用面での合理化が可能。

小中高一貫教育を1ヶ所に集約することで教育の効率化・費用削減・生き生きした学校生活の提供が可能。

廃校の活用はオフィス、クラブ活動、文化教室、フィットネスクラブなど、多様な活用方法が考えられる。

定期的に町民の声を聞く場を設け、今回参加できなかった人の意見も反映してほしい。

## ○■■■■■

議会側から積極的にアプローチしてほしい。

自分たちからではなく、議会から声をかけてもらえれば、よりざっくばらんな意見交換ができる。

## ○早樋議長

今後も意見交換会を設けたいが、制約もある。

本日の意見交換会を踏まえて、委員会で議論し、前進させていく。

## ○高橋委員長

長時間の意見交換に感謝。初めての試みで若干ぎくしゃくした面もあった。

住民・保護者から、ざっくばらんな話を聞きたいとの意見多数。

今後、議会内で十分な意見交換を行い、より良い、納得いただける意見交換会やお話会を検討。

本日出た意見はペーパーと一緒に持ち帰り、議会内で審議し、再度住民に伝える予定。

有意義な時間であったことに感謝し、意見交換会を終了。